

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会に適用する規則は、2025 年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会規定である。また、本大会はトラック種目および跳躍種目を WRk 対象競技会とする。審判長および競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ競技者はその指示に従わなければならない、明らかに規則・規程違反のシューズや疑わしいシューズはチェックや回収の対象になることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。

【競技用靴・靴底厚さ表】

種 目	靴底最大の厚さ	要 件 ・ 備 考
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	全跳躍種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。(前足の中心は、靴の内部の 75%にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの 12%にある靴の中心点)。
道路競技	40mm	

*その他詳細、WA承認靴リストについては、<https://certcheck.worldathletics.org/>を参照すること。



2. 練習について

(1) 練習の時間帯は下記の通り。

	本 競 技 場	補 助 競 技 場
6 月 1 1 日 (水)	1 3 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0	1 3 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0
1 2 日 (木)	7 : 3 0 ~ 8 : 5 0	7 : 3 0 ~ 1 7 : 3 0
1 3 日 (金)	7 : 3 0 ~ 8 : 5 0	7 : 3 0 ~ 1 7 : 3 0
1 4 日 (土)	7 : 3 0 ~ 8 : 5 0	7 : 3 0 ~ 1 8 : 0 0
1 5 日 (日)	7 : 3 0 ~ 8 : 5 0	7 : 3 0 ~ 1 6 : 0 0

*本競技場の練習は競技運営の準備を並行して行うので注意すること。

- (2) 本競技場での練習において、芝生内は原則、全面立ち入り禁止（走高跳の助走のみ許可する）。補助競技場は練習を行ってもよいが、芝生内でのスパイクシューズの使用は禁止する。
- (3) 両競技場とも練習は、トラック種目・跳躍種目とする。競技場備え付けの用具を使用すること。ゴムチューブ・ミニハードル等を使用しての練習は禁止する。
- (4) 投てき練習（メディシンボール等を含む）は、競技場内外問わず一切禁止する。（5日間とも）
- (5) 本競技場・補助競技場内とも危険防止のため日傘の使用を禁止する。（5日間とも）
- (6) 練習会場では事前に注意事項を確認し、遵守するとともに、必ず競技役員の指示に従うこと。

3. 招集について

- (1) 招集所は、メインスタンド下の雨天走路に設ける。
- (2) 各種目の招集開始時刻・完了時刻はプログラムの競技日程欄に記載されている。
- (3) 競技区域内（招集所内含む）に携帯電話・スマートフォン・タブレット等のデバイス機器を持ち込むことはできない。

(4) 手順

- ① 招集開始時刻に競技者係の点呼を受ける。トラック種目出場者は、ナンバーを両腰のやや後方につけること。
招集時には、アスリートビブスと競技で使用するシューズの確認を受ける。長距離・競歩種目および混成競技の最終種目は別アスリートビブスを使用することがあるが、その際は、招集時に自分のアスリートビブスを競技者係に示し、別アスリートビブスを受け取ること。
- ② 点呼の代理は認めない。但し、2種目以上にわたって同時刻に出場する競技者は、第1種目の招集開始時刻までに本人がTIC（メインスタンド1階前特設テント）へ「多種目同時出場届」（用紙はTICに準備・HP・プログラム巻末に綴込み）を提出し、併せて招集を受けることができない種目の点呼（アスリートビブス・腰ナンバーカード・競技で使用するシューズの確認）を受けておくこと。届を出した場合、代理人は不要である。

(5) 招集完了時刻に遅れた競技者は出場する意志がないものとみなし処理する。

(6) リレー種目

- ① リレー種目のオーダー用紙は、TIC（メインスタンド1階前特設テント）で配布するので取りに来ること。各ラウンド（予選・準決勝・決勝）ともに、その種目の第1組目の招集完了時刻の1時間前までにTIC（メインスタンド1階前特設テント）に必要事項を記入のうえ提出すること。なお、女子4×100m準決勝は15時25分、男子4×100m準決勝は15時55分とする。「オーダー用紙」の提出がない場合は、出場する意思がないものとみなし処理する。
- ② 出場メンバー全員が点呼を受けること。但し、他種目に出場している場合は、上記(4)②に準ずる。
- ③ リレー競技に出場するチームは、同一ユニフォームで参加しなければならない。（形状を統一する必要はないが、デザイン・配色は統一すること。）
- ④ 4×100mでは第4走者、4×400mでは第2・第3・第4走者は腰ナンバーカードを受け取り、両腰のやや後方につけること。

(7) 男子5000m・女子3000m・男女5000m競歩は別アスリートビブスを使用する。

(8) 招集所から競技場所への移動は、競技者係の誘導に従うこと。

(9) やむなく欠場する場合は、招集開始時刻までに、欠場届（HP・プログラム巻末に綴込み）に必要事項を記入し、TIC（メインスタンド1階前特設テント）に提出すること。

(10) 混成競技

- ① 1日目、2日目ともに第1種目は招集所にて指定された時刻に行う。それ以降の種目は、混成競技控え室で点呼を受け、当該競技役員の誘導により競技場所に移動する。
（トラック種目は、競技開始の20分前、フィールド種目は40分前までに集合すること。）
- ② 他種目と重なっている場合は、あらかじめ混成競技係にその旨を告げ、競技者係に「多種目同時出場届」を提出しておけば、直接現地への移動を認める。また、このとき競技者はフィールド種目においては、いずれの競技種目を優先させるかを定めることができるが、トラック種目と重なる場合はトラック種目が優先となる。

4. 競技進行について

(1) 番組編成およびラウンドの通過について

- ① トラック競技の予選のレーン順、および跳躍競技の予選、投てき競技の決勝の試技順はすべてプログラム記載の順番とする。なお、準決勝以降の組み合わせはすべて番組編成員が行い、大型映像に表示してアナウンスで発表するとともにアスリートランキング.comに掲載する。
- ② トラック競技における次のラウンドへの進出者について
(ア) (+α)を決めるとき、その最下位で同タイム(1/100単位)が出た場合、1/1000秒単位で優劣の判定をする。
 - ・レーンに余裕がある場合・・・同タイム(1/1000秒単位)の選手の進出を認める。

・レーンに余裕がない場合・・・本人または代理人により抽選する。

(イ) 同着により着取りによる進出者が増えた場合は、+αでの進出者数を減らす。

(ウ) オープン・レーンを使用する種目（800m含む）は、同タイム（1/1000秒単位）の競技者は全員次のラウンドに進める。

(2) 競技について

- ① 競技結果については、大型映像に表示してアナウンスで発表するとともにアスリートランキング.comに掲載する。なお、競技結果が大型映像に表示されアナウンスされた時点を正式発表とする。
- ② 当該種目出場者以外は競技エリア内に立ち入ることができない。
- ③ スパイクのピンは11本以内とし、長さは9mm以内のものを使用すること。但し、走高跳・やり投については12mm以内とする。
- ④ アスリートビブスは配布された大きさのままでユニフォームの胸部と背部につけること。但し、跳躍競技に出場する選手は、胸部または背部だけでもよい。
- ⑤ 男子5000m・女子3000m・男女5000m競歩は危険防止のためグループスタートで行う。
- ⑥ トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- ⑦ 4×100mのマーカーは、主催者が準備し、競技前に招集所で競技者係が配布する。競技終了後、必ず自チームのマークは前走者が取り除くこと。
- ⑧ フィールド競技において、コーチの競技者に対する助言が競技の進行を妨げないようにするため、近接する観客席に「コーチ席」を設けるので、競技者への助言はすべてコーチ席から行うこと。
- ⑨ 競技区域内（招集所内含む）に携帯電話・スマートフォン・タブレット等のデバイス機器を持ち込むことはできない。また、競技区域内で助力を与えたり受けたりしている競技者は、失格の対象となる。ただし、フィールド競技に出場している競技者が、それ以前の試技の映像を見るために、コーチ席から録画再生機器等を手にとり、その付近で操作する場合に限り、競技区域に持ち込むことは認める。なお、メインスタンドにおいて受け渡しをする場合は、指定されたエリアで指定された吊り下げ袋を使用した場合のみ認める。その際、事故等が起こらないようにコミュニケーションをとりながら安全面には十分に配慮すること。また、事故等が起こった場合、主催者は責任を負わない。
- ⑩ 混成競技の走高跳は、競技者に最初の高さの希望調査を行い、その結果をもとに2組に分けて実施する。
- ⑪ 混成競技の最終種目では、それまでの成績による順位を表す別アスリートビブスを胸につけて競技を行う。背は競技者個人のアスリートビブスで、腰はレーンナンバーとする。
- ⑫ 競技場内での練習は競技役員の指示に従うこと。
- ⑬ 競技区域内では安全確保・危険防止のため、個人所有の椅子や日傘、大型のクーラーボックス等の持ち込み・使用を禁止する。

(3) 跳躍種目の予選通過標準記録は下記の通りとする。

	走高跳	棒高跳	走幅跳	三段跳
男子	1 m 9 4	4 m 3 5	6 m 9 5	1 4 m 3 0
女子	1 m 6 2	—	5 m 5 0	—

(4) 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は下記のとおりとする。

男子 走高跳	予選	(練習)	1 m 8 5 1 m 9 1	1 m 8 8 - 1 m 9 1 - 1 m 9 4
	決勝	(練習)	1 m 8 8 1 m 9 4	1 m 9 1 - 1 m 9 4 - 1 m 9 7 以後 3 cm ずつ
女子 走高跳	予選	(練習)	1 m 5 3 1 m 5 9	1 m 5 6 - 1 m 5 9 - 1 m 6 2
	決勝	(練習)	1 m 5 6 1 m 6 2	1 m 5 9 - 1 m 6 2 - 1 m 6 5 以後 3 cm ずつ
男子 棒高跳	予選	(練習)	4 m 1 0 4 m 3 5	4 m 1 0 - 4 m 2 5 - 4 m 3 5
	決勝	(練習)	4 m 3 0 4 m 5 0 4 m 8 0	4 m 3 0 - 4 m 4 0 - 4 m 5 0 - 4 m 6 0 4 m 7 0 - 4 m 8 0 - 4 m 8 5 以後 5 cm ずつ
女子 棒高跳	決勝	(練習)	2 m 9 0 3 m 4 0 3 m 8 0	3 m 0 0 - 3 m 1 0 - 3 m 2 0 - 3 m 3 0 - 3 m 4 0 - 3 m 5 0 - 3 m 5 5 以後 5 cm ずつ
男子 八種競技 (走高跳)	1 組	(練習)	1 m 3 7 1 m 5 8	1 m 4 0 - 1 m 4 3 - 1 m 4 6 以後 3 cm ずつ
	2 組	(練習)	1 m 5 5 1 m 7 3	1 m 5 8 - 1 m 6 1 - 1 m 6 4 以後 3 cm ずつ
女子 七種競技 (走高跳)	1 組	(練習)	1 m 1 4 1 m 3 2	1 m 1 7 - 1 m 2 0 - 1 m 2 3 以後 3 cm ずつ
	2 組	(練習)	1 m 3 5 1 m 5 0	1 m 3 8 - 1 m 4 1 - 1 m 4 4 以後 3 cm ずつ

同記録による 1 位決定と全国大会出場権決定のバーの上げ下げは、走高跳 2cm、棒高跳 5cm とする。

5. 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポール・やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。
- (2) やりは競技場備え付けのものを準備するが、主催者が用意する投てき物一覧表にあっても、検査を受けて自己の物を使用してもよい。その場合、出場競技者全員で共有できるものとする。全競技者の競技終了後、TIC（メインスタンド 1 階前特設テント）で返却する。検査時刻は、競技開始時刻の 9 0 分前から 6 0 分前までとし、TIC（メインスタンド 1 階前特設テント）に持ち込むこと。

6. 抗議について

抗議は府県監督（当該校顧問同伴）から、TIC（メインスタンド 1 階前特設テント）に申し出る。

日本陸上競技連盟競技規則（TR. 8. 2）

競技(ラウンド)の結果または競技実施に関する抗議は、その競技(ラウンド)の結果の正式発表後 30 分以内に行わなければならない。

〔国内〕同一日に次のラウンドが行われる競技では、その結果が正式に発表されてから 15 分以内に申し出なければ、なんら問題はなかったものとみなされる。

7. 表彰について

- (1) 各種目 6 位までの入賞者を表彰する。成績発表後直ちに受賞者席(メインスタンド下中央ロビー)に集合すること。他種目に出場中の場合は、必ず表彰係に連絡のうえ代理人を出すこと。
- (2) 各種目表彰では、優勝者の所属校の部旗を掲揚するので、成績発表後直ちにメインスタンド下中央ロビーの表彰係まで持参し指示を受けること。なお、7 位・8 位の者にも賞状があるので受け取ること。
- (3) 表彰式では以下の表彰を行うので当該校(者)は必ず参加すること。
 - ① 男女別総合と男女別トラック・フィールドの部で 3 位までに入賞した学校
 - ② 男女の最優秀選手

③ 男女各総合優勝校の監督

- *全国インターハイ出場は、各種目6位までに入賞した者とする。ただし、走高跳・男子棒高跳は、6位までに入賞した6名。男女5000m競歩は5位・女子三段跳・女子ハンマー投げは、4位までに入賞した者。女子棒高跳は、4位までに入賞した4名。男子八種競技・女子七種競技は、3位までに入賞した者及び各ブロック予選会の4～6位入賞者のブロック予選会記録（公認・非公認を問わない）の上位5名の者とする。
- *高さ競技で同順位が多数の場合はジャンプオフ方式において全国大会出場権決定戦を行う。

8. その他

- (1) 競技場の開門は、4日間とも7時30分とする。
- (2) テント、シート、横断幕、のぼりについて
 - ①メインスタンド、バックスタンド、サイドスタンドは、事前に各府県で割り当てられた場所を使用すること。
ただし、メインスタンドに場所取り禁止エリアを設けるので注意すること。
 - ②メインスタンド裏側通路は、テントの設置を許可するが、通行に迷惑のかからない範囲での設置を認める。
 - ③競技場内外の場所取りは、各府県で割り当てられた場所以外は一切禁止する。また設営しているテント、シート等をその場にまとめておくことは可能であるが、テントはたたみ、その他の荷物もコンパクトにまとめておくこと。なお、管理責任は負わない。
 - ④のぼりについては、メインスタンド以外の中段通路より上部の手すりに設置してもよい。ただし、監察カメラに支障がある場合は移動・撤去してもらうことがある。
 - ⑤テント・横断幕・のぼりの設置にテープを使用する場合は必ず養生テープを使用すること。
 - ⑥メインスタンドのロイヤルボックスは、各府県監督席とするので監督以外は立ち入らないこと。
- (3) 応援について
 - ①スタンドで行い、競技場トラック周辺に降りて行わないこと。また、集団での連呼応援は自粛すること。（特にトラック競技のスタート直前は注意すること。）また、円滑な競技会運営のため、コーチ席並びに報道エリアを観戦や応援のためのスペースよりも優先して設置する。（コーチ以外は中での応援は行わないこと）
なお、手拍子については決勝のトップ8以降のみとする（高さ種目においては概ね8名、混成競技においては競技に支障のない範囲でとする）。
 - ②スタンド（メイン・サイド・バック）最前列及び中央通路での立ったままの応援・観戦は禁止する。
 - ③メインスタンドの一面に場所取り禁止区域を設定する。
 - ④スタンドで日傘を使用する場合は他の観戦者に配慮して使用すること。
- (4) 更衣室は補助競技場に設置されているものを使用できる。また更衣のみとし、使用後はすみやかに退室すること。また、一切の私物を置いてはならない。
- (5) 競技中に起こったケガについては、本部の医務室で応急処置のみ行う。
- (6) スタンド等使用した場所は、各校で責任を持って清掃し、ゴミは各校で持ち帰ること。駅・競技場周辺のごみ箱等には絶対放置しないこと。（競技場内にごみ箱はありません）
- (7) フィニッシュ後のスタート地点への移動等は、競技役員の指示する通路に従って移動すること。また、通行禁止や使用禁止の表示のある場合は、厳守すること。
- (8) 盗撮行為等を防止するために「撮影禁止区域」を各スタンドに定める。
- (9) 盗撮行為等を防止するために、スマートフォン・タブレット以外での撮影をされる場合はTIC（メインスタンド1階前特設テント）に撮影許可証を申請しにくること。また、撮影時は必ず撮影許可書を着けること。
（望遠レンズを付けたスマートフォンは撮影許可書が必要）
- (10) 貴重品、荷物類は各自で管理し、盗難等に充分注意すること。
- (11) ポールの保管場所は競技場内（マラソングート内）に設ける。